

# 市民フォーラム 鹿兒島

平成6年(1994年) 鹿兒島市広報課  
7月1日発行

## No.57

【特集】水の潤い





## 皆与志の上空から

皆与志町の上空から桜島方向を望んでみた。

皆与志町は鹿児島市の北部に位置し、郡山町、吉田町と隣接している。

豊かな自然に囲まれたこの町には三重岳自然遊歩道や市内で最も大きな滝、比志島の滝がある。

三重岳の山頂からは鹿児島市街地、錦江湾、桜島が望め、晴れた日には霧島連峰や大隅半島、開聞岳、紫尾山をも一望できる。

写真中央は皆与志小学校。毎年6月には学校農園で田植えも行われる。また、学校東側には皆与志川が流れる。

川沿いに田畑が開けている様子が良くわかる。秋にはこの地が黄金色に染まる。



# C O N T E N T S

### 市民フォト鹿児島No.57

わがまち上空散歩	2
【特集】水の潤い	3
クローズアップ ● 東文子さん	12
学校探訪 ● 谷山小学校	14
技の世界 ● 福永誠さん	16
ハロー鹿児島 ● ユシ・ララネさん	18
シティーアングル	19

わたしの好きな場所 ● 新須則雄さん	20
ふるさとの歴史探訪 ● 皇徳寺	22
よかタイム ● 長田辰彦さん	24
かごしまの自然 ● 平川の海辺	25
市民ギャラリー ● 中央公民館	26
あなたのフォトサロン ● 錦江湾海中散歩	28
集えば楽し ● コール・モンターク	30
市立美術館 ● 東郷青児「雲」	31

#### ●「表紙」写真説明

松原小学校の児童は今年も桜島横断遠泳に挑戦します。練習開始当初は、そんなに泳げなかった子も本番前にはプールを40周も泳げるようになります。それを成し得るのは学校の先生方の指導はもちろんですが、何といたっても子どもたちの日々の練習と精神力です。

今日はミス鹿児島島の田中麻衣さんも応援です。

「みんな、がんばって！」

# 【特集】水の潤い

地球の青さは水の青。

あらゆる生物は水の恩恵を受けています。

特に私たち人間は生命や生活の維持ばかりでなく

「潤い」をも享受しています。

田畑を潤し、街を潤し、人の心をも潤す水。

私たちの街、鹿児島市も潤いにあふれています。

今回の市民フォトはそんな水の潤いを特集します。



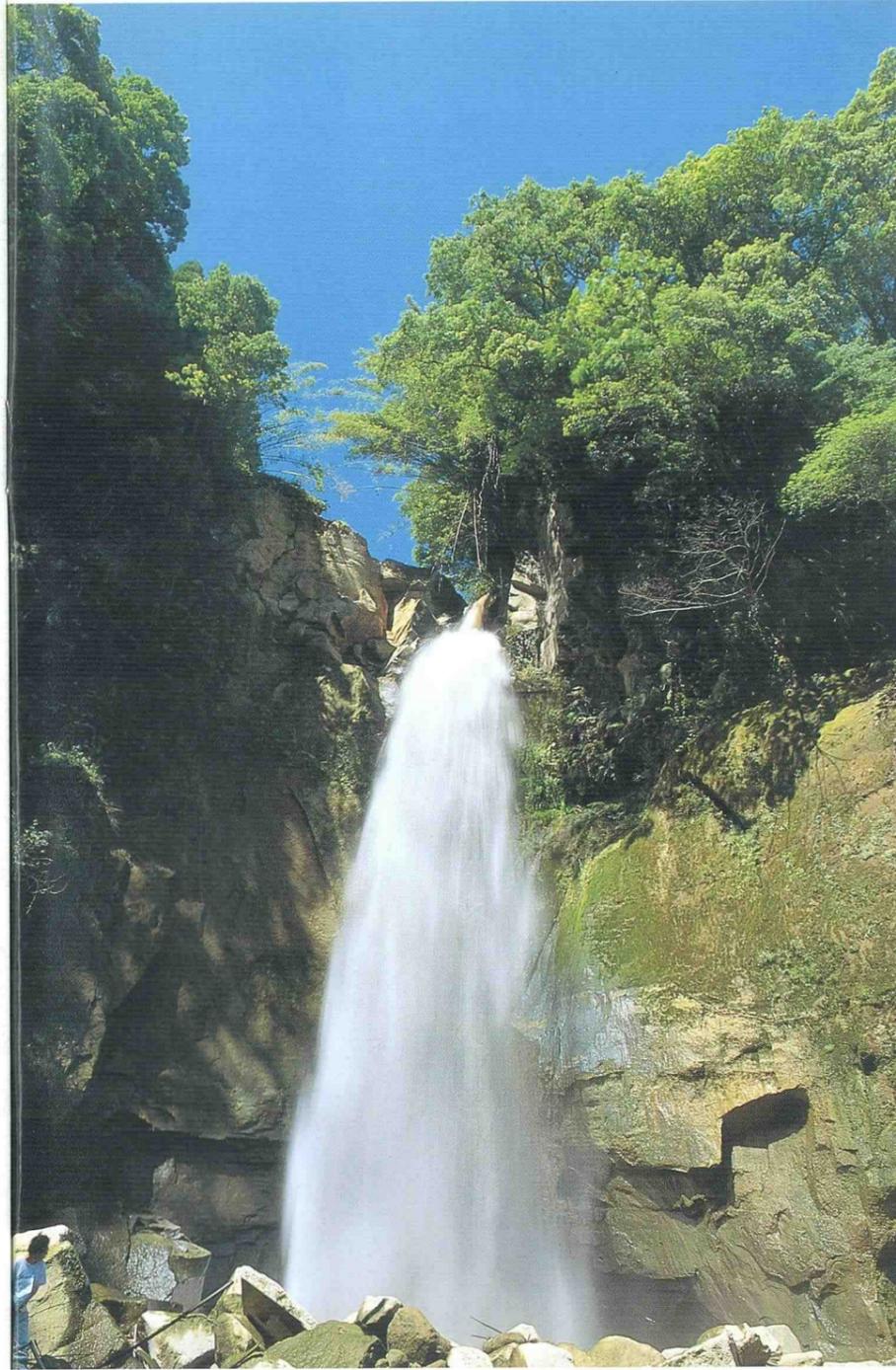


七窪水源池近くの湧水池からは、一日約650トンの水が（下田町）

泉となって、こんこんと地上に湧き出る水。  
それは透明感にあふれ、私たちの  
のどを潤してくれる。  
池もまた、コイやフナ、水生植物の  
絶好のすみかとなる。  
生命の源としての水。  
水との共生がそこにある。



島津氏の別邸だった玉里邸跡にある鶴の池（鹿児島女子高内）  
（玉里町）



静寂のなか、白い飛沫が光にきらめき、滝の首だけが響きわたる  
（比志島の滝～皆与志町）

# 天からの恩恵「水」。

まちを離れ、自然のなかに入ってみる。  
木もれ日のなか、緑の木々を縫うように流れる水。  
白い瀑布となって、滝つぼに落下する水……………。  
水は上から下へ流れる謙虚さと、岩をも砕く力を合わせて持っている。  
さまざまな水の表情が、プリズムのように映し出されていく……………。



ミヤマカワトンボ

慈眼寺公園入口にある「酒水の井戸」（下福元町）



鶴丸城の堀に夏の風物詩、ハスの花が咲く



渓流を流れる水は、みずみずしさと涼感にあふれている  
（滝之下川の渓流～中山町）



天文館バス停付近

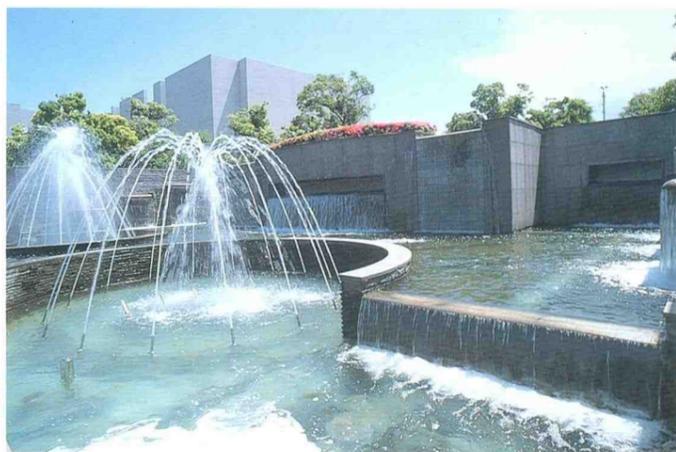


みなと大通り公園

街では、いろいろな水が  
われわれを迎えてくれます。  
悲しいときには励ますように、  
うれしいときには微笑むように。  
ふと、のぞき込んだ水に  
自分の顔が映ります。  
水面が揺れて  
風が勇気を運んでくれます。



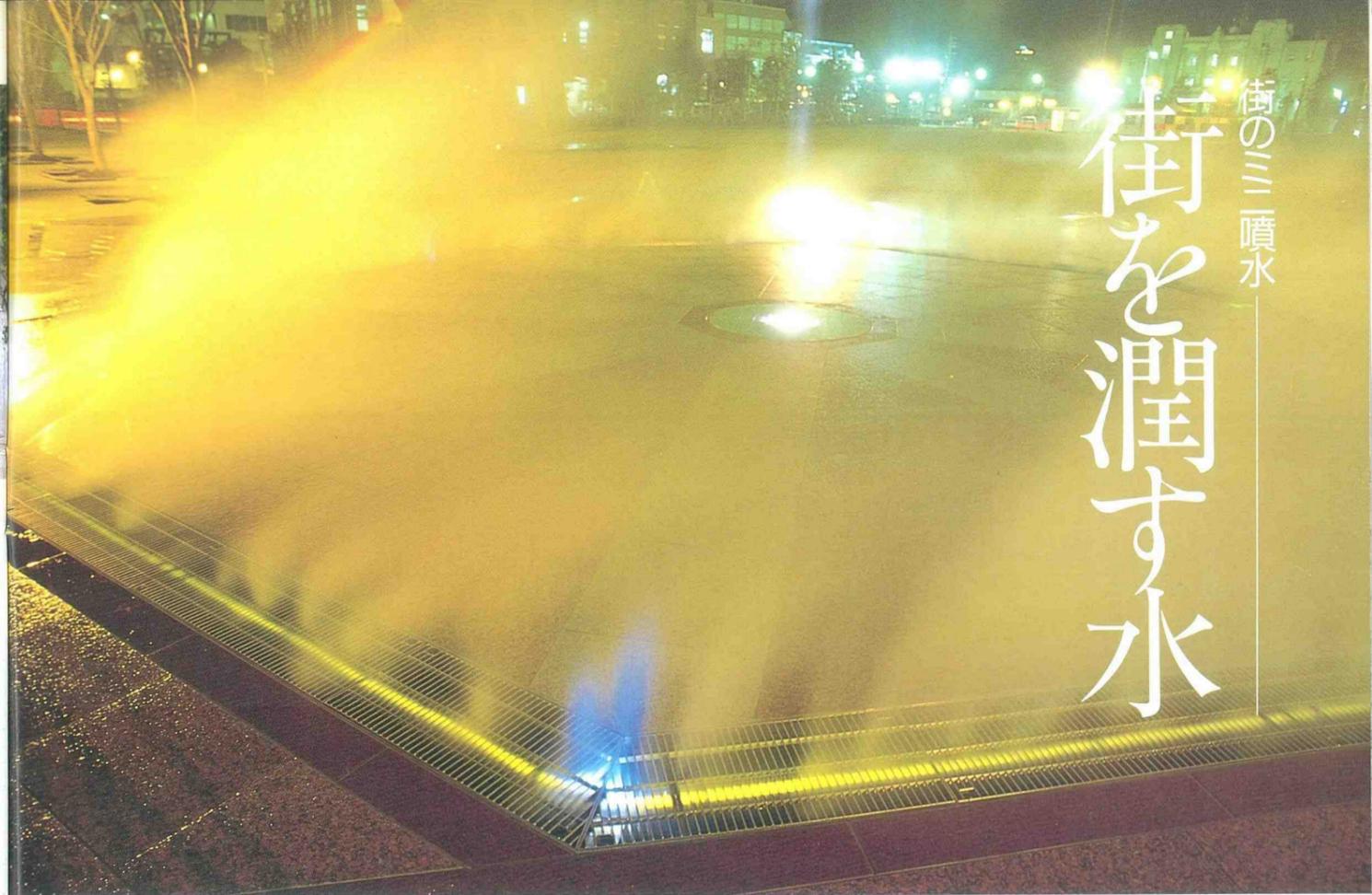
歴史と文化の道



市民文化ホール



市立図書館



街のミニ噴水

# 街を潤す水

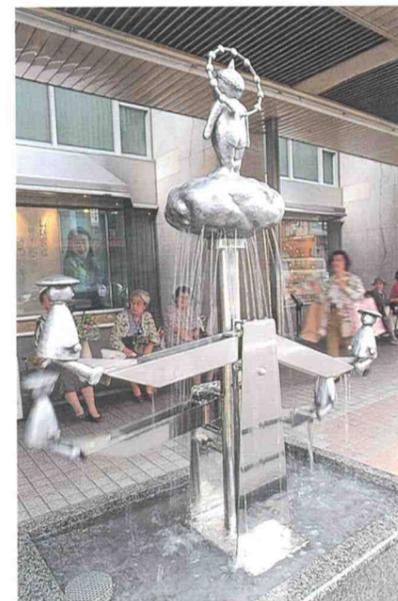
急ぎ足で歩く人々の影が行き交う。  
ビルに囲まれた街に  
人々の靴音が響きわたる。  
ここは時間の流れが早い。  
そんな、慌ただしさを  
忘れさせてくれるものがある。  
そう、  
水が奏でるシンフォニー。  
水が時間、空間を  
その中に溶かし込み、  
人々へ潤いを流し込む。  
遠くから聞こえてくる水の音に、  
耳を傾けたくなってくる。  
水は心のオアシスだから……。



谷山電停



大明ヶ丘中央



金生町バス停付近



田んぼの中、いきいきと水は流れ、自然の恵みをもたらします

生活の中で活用される水 ふと考えると  
私たちの暮らしに欠かせないものです

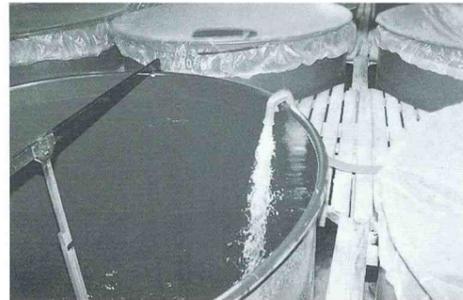
# 活用される水



待ちきれない水 浮輪をギュッと握り、さあ飛び込もう



さらさらと流れる水 せせらぎが雅な色彩を浮きあがらせる



工場で生かされる水。水は焼酎工場に必要不可欠なもの



スプリンクラーからいきおいよく飛び出る水、さわやかな公園の緑を守ります



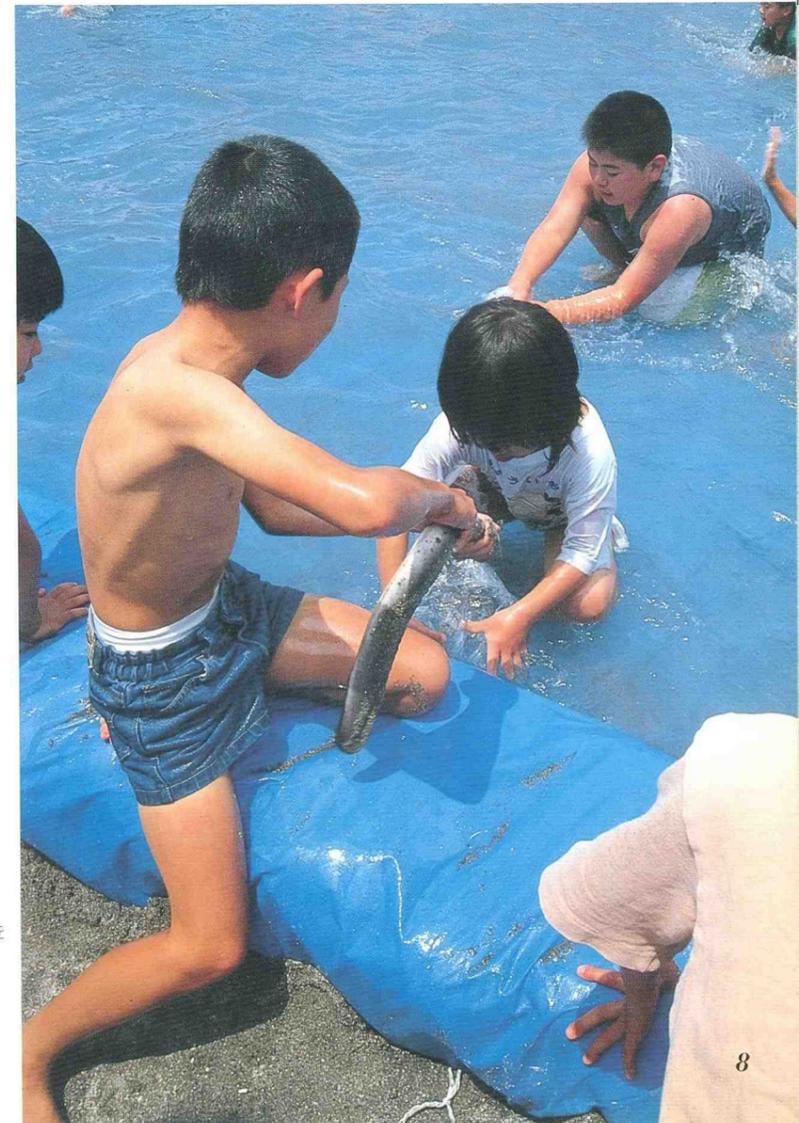
わんばくな水 白いしぶきが太陽に弾ける



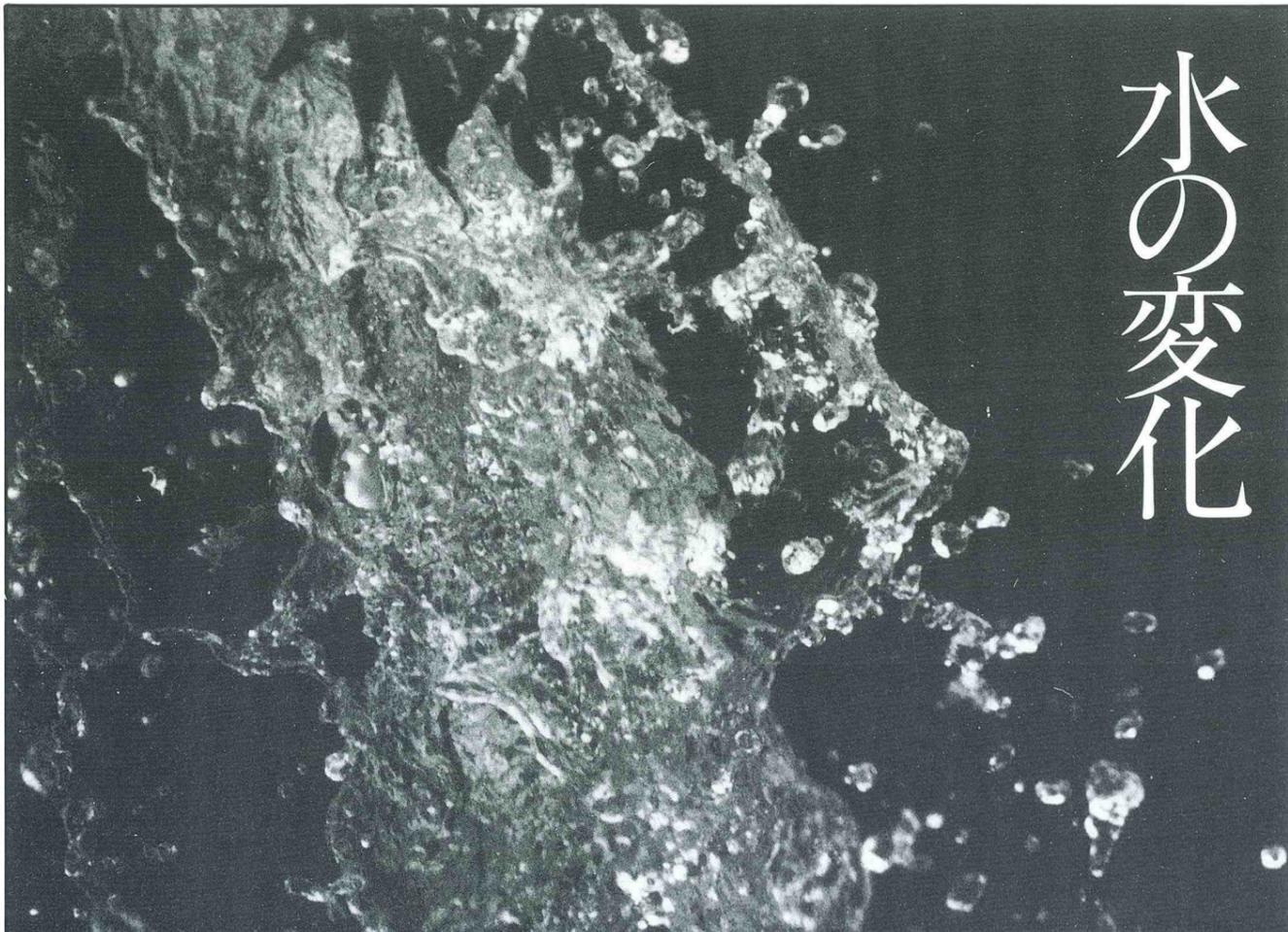
「火事だ！」 その時も水は力強い味方

水は自由に姿を変え、楽しませてくれる。  
キラキラと光り、子どもの心にかえしてくれる。  
高い青空。太陽のもと、揺れる水面に飛び跳ねる。  
「冷たい」でも「気持ちいい」  
隣のお兄ちゃんのやんちゃな笑顔と白い歯。  
みんな同じ。しぶきと笑いとブクブクを共有できる。  
水が好き。だって純粋な気持ちになれるから。  
おいでよ。わいわい楽しく遊ぼう。  
おいでよ。

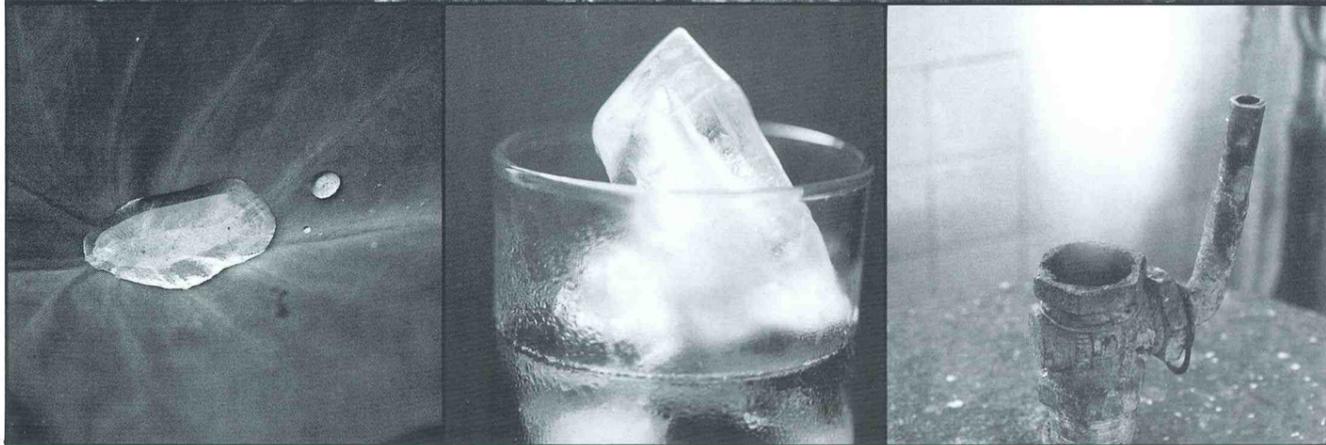
# 水で遊ぶ



すばしこい水 生き物が小さな手を敏捷にすり抜ける



# 水の変化



水は不思議な物質です。水の形というとすぐに私たちは蛇口からの「しずく」を思い浮かべますが、「水は方円の器に従う」という言葉があるように水は容器の形によってどんな形にもなります。氷となれば器なしでも形を有しますし、蒸気となれば我々の視界から消え失せてしまいます。また、水は無色透明と言われますが、映す色によって、いかようにもその色を変えます。群青色の海、紅色の溪流、深い緑色の湖沼などなど。変幻自在です。

加えて、水は力を持っています。水滴は石をも穿ちますし、流れは川の形さえ変えてしまいます。電力さえも起こします。水の不思議です。

ところで、私たちの生活を振り返ると、水で顔を洗い、口をゆすぎ、お茶を飲みます。ご飯を炊くにも、洗濯するにも、お風呂に入るにも、そして、トイレにも。とても水なしの生活は考えられません。

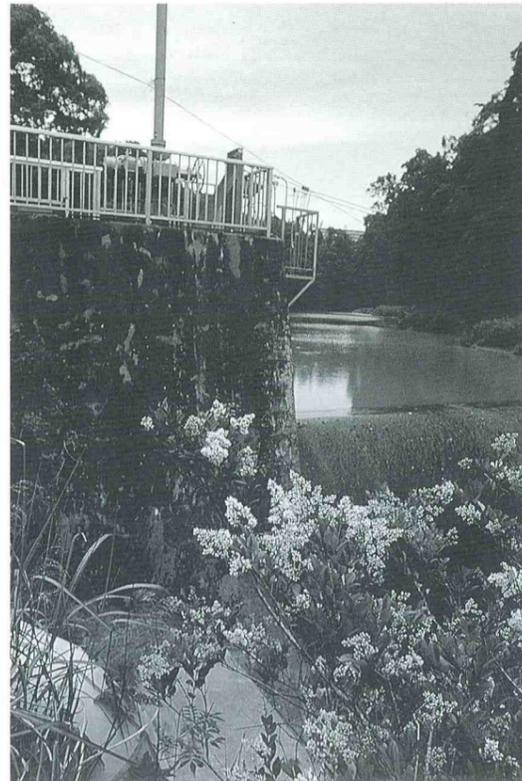
それどころか、私たち人間の命は水によって支えられていると言っても過言ではありません。母親の暖かい羊水の中でおよそ九カ月間、命を育みますし体の重さの約6割は水分です。血液は九割以上が水でできています。

ギリシャの哲学者タレス（紀元前640年〜546年）は言いました。「水は宇宙の根源であり、万物は水から作られ、究極にはふたたび水に帰ると。」

# 飲料水ができるまで

私たちの生活に欠かせない飲料水  
水は浄水場の中で安全で  
おいしい水になります

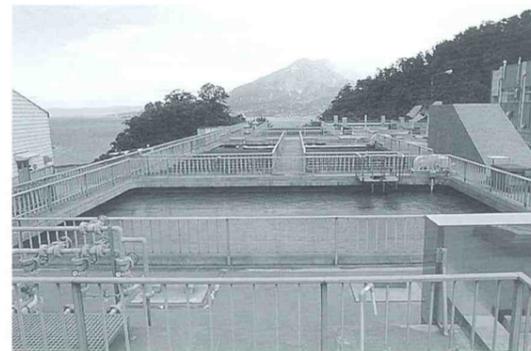
写真は水道局滝之神浄水場



1 緑に包まれた取水ダム、私たちの大切な水源です

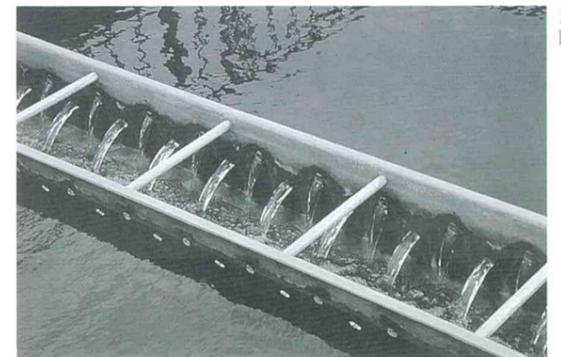
2

緑の中を走る送水管（直径80cm）



3 浄水場に到着

4



沈んでん池で不純物を取り除きます



5 急速ろ過池から浄水池へ  
皆さんの家庭へ安全でおいしい  
水をお届けします

5



# クローズアップ

国際交流という言葉もまだ聞かなかった時代から二十三年間地道にアジア・アフリカの留学生の世話を続けてきた女性がいる。この女性が一緒に汗を流した留学生は数えきれない。留学生からお姉さんと慕われているこの女性に国際交流のいまを聞いた。

# 東文子さん

## PROFILE

1968年東京の短期大学を卒業後、信州のユースホテルで無償のヘルパーを経験。同年帰鹿。地元銀行に入行。このころからボランティアでアジア、アフリカからの留学生を支える。この間、外国人を暖かく迎える青年の会副会長も務める。1978年から心のオアシス「キャビン」を開く。現在、(財)鹿児島県国際交流協会カウンセラー、青年海外協力隊を支援する会理事、日英友好協会常務理事。

「身近な人が苦しんでいた、辛い立場にあつたら誰だって手を差し伸べたくなるもの。それがまたま留学生だったのです」優しい笑顔を見せる、東文子さん。民間の立場から二十三年間留学生の世話をしている女性だ。

南の拠点・アジアへの玄関口として国際化を掲げる鹿児島。五年度末の外国人の登録者の数も二百人余りと年々増加している。東さんは二十三年間、留学生達に、いい意味での誇りとプライドを持ちなさいと言いつづけてきた。これまで留学生の部屋探し、遊びの日本語講座など孤独になりがちな留学生、そして、その家族を常に励まし続けてきた。

留学生との付き合いに必要なのは言葉ではないと東さんは言う。「結局は心だと思えます。人間同士お互い思いやるやさしさがあれば国際交流という言葉も意識しないで済むんじゃないですか」これまでの活動で東さんが接した留学生は数えきれない。国籍もアジアからアフリカまで三十カ国に及ぶ。

活動を始めたばかりの頃は留学生、特にアジア・アフリカから来

ている人への偏見がひどかったという。最近はずがにそんなことはないが、留学生が増えたことで逆に新たな問題も出てきている。

「最近、家族で来ている留学生が多いんです。留学生本人は目的を持って来ているからいいんですが、留学生の奥様や子供は慣れない土地で精神的に大きな苦勞をしているんです」そんな時、東さんは夜中でも留学生のもとにかけつけることもある。「人間いい時は放っておいても大丈夫。でも誰かが助けを必要なのは外国の人だって、隣の人だって関係ないと思いますよ」東さんは当たり前前のごことをしているだけ、という感じで淡々と語った。

そんな東さんが一番辛かったのはベトナム戦争が終わった一九七五年。当時鹿児島にも南ベトナムから五人の留学生が来ていました。彼らは自分の国でおきている戦争の様子をテレビで食い入るように見ていました。かける言葉も無いつらさ。私はただ国からの送金がストップした彼らを連れて毎晩仕事探しに回ったものです」

国際交流を難しく考えることはないと言います。東さんは言う。「例えば、

一個のパンを五人いたら仲良く五人で分け合って食べるという気持ちを持つということ。このごろ、私たち日本人は目先のことにとらわれすぎて心という大切なものを見失っているんじゃないでしょうか。目に見えるものじゃなくて目に見えないものがいかに大切かということなんです」

東さんは十六年前、留学生達から彼らの帰れる心のふるさとが欲しいと言われ、鹿児島市東千石町に「キャビン」という心のオアシスを作った。ここは皆が本音で気軽に語り合う異業種交流の場である。「若い人達に目覚める機会をもちろん、お客様が日本、世界をネットワークに心が生きていることはすばらしいことじゃないでしょうか」

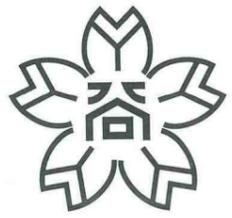
「若い人につっかい棒を作ってあげたい」という東さん。インタビューを終えた記者の背中についてまわったつっかい棒ができていた。今度はこのつっかい棒をみんなに返していこう、そう感じた。

文/三上 仁・NHK鹿児島放送局 記者



留学生の家族とともに...

# 学・校・探・訪



## 谷山小学校

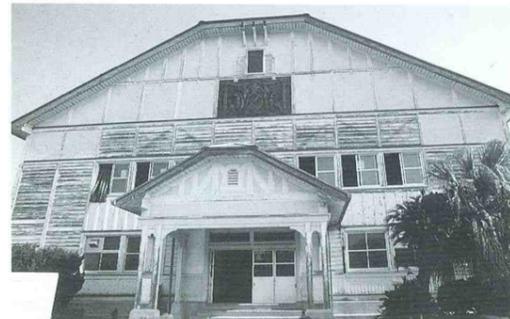
●創立…明治2年5月  
●児童数…1,470人  
(平成6年5月1日現在)



鹿児島県一のマンモス校。



谷山ダービー、さあ出発だ!



風雪に耐え、多くの思い出をつくってくれた講堂。60年間、ありがとうございました。新しい体育館は6月に建設が始まります。



友だちはよろこびを2倍にし、悲しみを半分してくれる



「気づき、考え、行動する」がモットーです=日本青少年赤十字活動



「おはよう」元気な声が飛び交う、毎朝のあいさつ、交通指導



友情はいつもでも、38年続いている大淀小との交歓会

## 躍進する 谷山小

六年 是枝 さとり

私たちの谷山小学校は、鹿児島市の中央から少し南寄り、かつての谷山市の中心に位置する谷山支所の真向かいにあります。現在の児童数は千四百七十人。かつては日本一、現在でも鹿児島県一のマンモス校で、創立百二十五周年を迎えた伝統のある学校です。

昭和三十年からは宮崎市の大淀小学校との交歓会が始まり、三十八年たった今でも、修学旅行の行き先に組み入れて、春秋二回の対面で友情を深めています。

昭和三十三年には日本青少年赤十字に入団し、ボランティア活動を進めてきました。現在も一円募金、義援金、慈光園訪問、六年生の毎朝の清掃活動、特殊学級との交流学習などを行っています。

また、スポーツ活動やクラブ活動も盛んで、吹奏楽コンクールで県代表として九州大会にも出場した吹奏楽部の活躍のほか、数々の賞を受賞しています。

谷山は、小松原から七ツ島までの海は埋め立てられ臨海工業地帯として発展し、国道二二五号と産業道路は交通量も多く、

交通の要所となっている場所です。

また、波之平刀匠遺蹟、塩釜神社、長太郎窯元、地頭館跡、赤崎海門誕生地、慈眼寺跡など史跡めぐりにも事欠かないところです。

歴史と伝統を生かしながら、二十一世紀に大きく羽ばたく谷山小学校です。

# 技の世界

小山田の竹名人

福永 誠さん(64)



孟宗竹の清い香りが広がる 割った竹1本から8枚ものひごができる

「竹には二つひとつの顔がある。分かるのに何十年もかかる。」

竹の香り漂う作業場で、青々とした孟宗竹を割りながら話すのは小山田竹製品振興組合の福永誠さん(六十四歳)。この道五十年の竹名人である。現在、福永さんが作っている作品は、買い物かご、とうふかご、ばらなど、三十二品、百三十種類。そのほとんどが昔ながらの手作業で作られていく。

「竹製品作りでは、編み方よりもその前の、竹の見立て、はぎ方(竹を細く割って、編む材料となるひごを作る)が難しい。」と福永名人は竹割りなただて竹をリズムミカルにはぎながら話す。

名人は自ら近くの竹林に分け入り、竹を見立てる。まっすぐ天に伸びた青竹はばらに

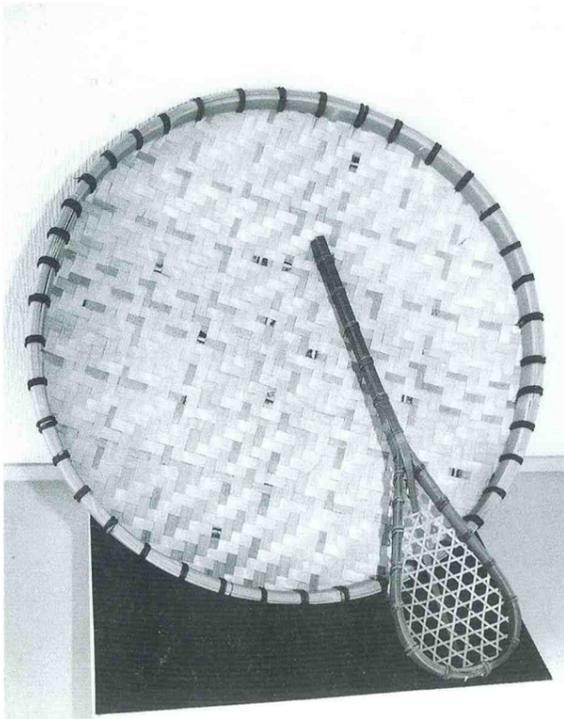
向いている。竹ふしがいかつい孟宗竹は小さな買い物かごにすると自然の光沢が生きてくる。弾力性のある真竹はどうふかごになる。

竹を見て、触れると、竹のどの部分かどういった製品になるか分かるという。

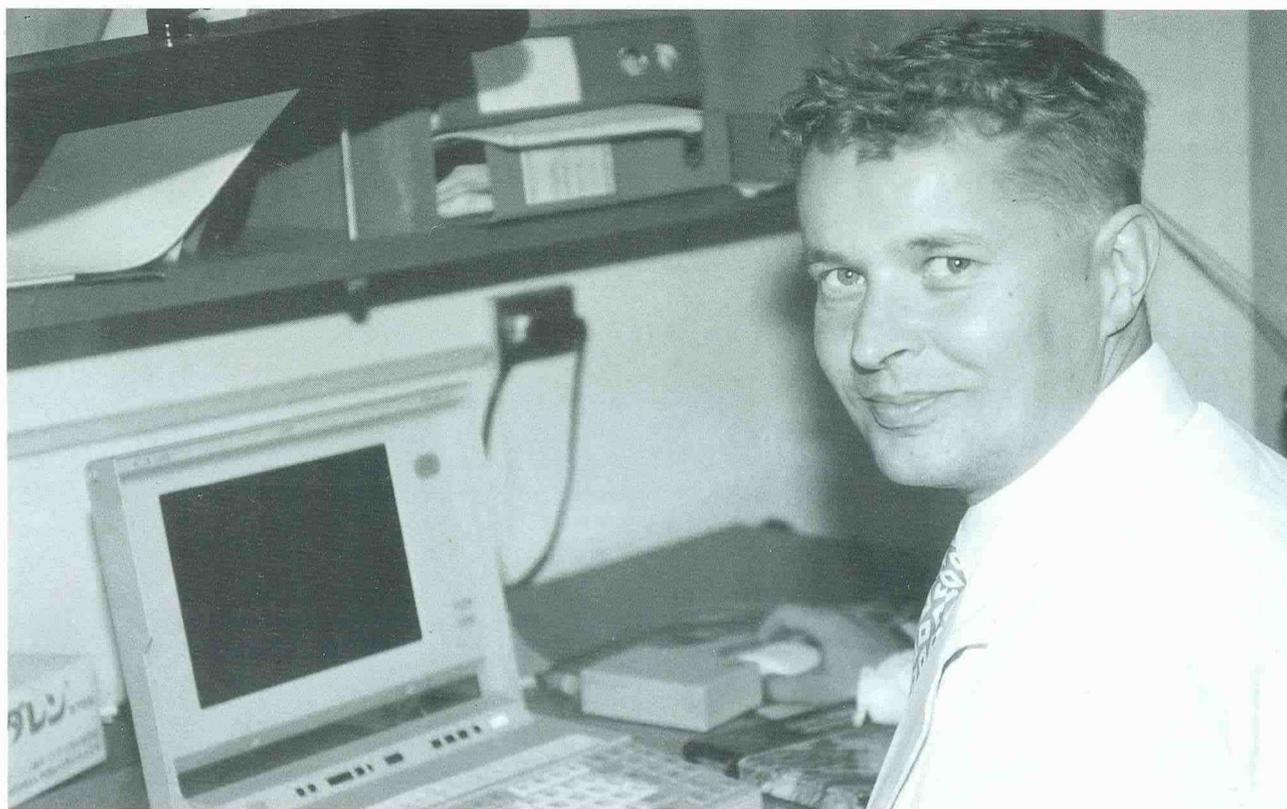
名人の作品は今、鹿児島の特産品として、東京ほか県外に出荷されている。「東京では、ばらが壁掛けとして喜ばれています。しかし、私は実用品としても作っているのです。」

小さい時から竹工芸に親しみ、日常生活でも竹製品が身近だった名人。だから使いやすく、じょうぶなものを作る。

竹名人のモットーは、単純明快。「竹を大事に扱うこと。」



ばら(左上)とだごあげ(右下) 昔ながらの姿で今に息づいている



サンタクロースとムーミンの故郷フィンランドから、今年の4月ユシ・ララネさんはやって来ました。南国の鹿児島は暑くて、火山灰まで降って大変でしょうと尋ねると、これも経験だと思って楽しんでますとほほえんでくれた。

現在、ユシさんは鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科で、レーザー手術の調査研究をしている。母国では大学病院の医師である彼は、めったにできないこの留学の機会をとらえ、できるかぎりのことを学んで帰国したらその総てを活かしたいと意気込む。

一方、暇を見つけると近所の人たちとバレーボールを楽しんだり、英訳付きの地図を買って市内を歩き回るなど、市民との交流にも熱

心だ。そんなユシさんに鹿児島人の印象を聞くと、「皆とても親切。道に迷ったらきちんと教えてくれるし、物を運んでいたら進んで手伝ってくれる。でも、自分から気軽に話しかけてきてくれないのがちょっと残念」。

5月に家族も呼び寄せ、上福元町のアパートで一家水入らずの生活を送っている。日本語は、子ども達から教わることになるだろうと陽気に話すユシさん。鹿児島での生活を人生における大冒険と考え、多少の困難は後のいい思い出になると信じて、楽しみながら受け入れる。そのおおらかで前向きな姿勢に、たくましくすがすがしい印象を受けました。

### ユシ・ララネさん

●フィンランド●



# CITY ANGLE



ええっ。こんな所に砂浜があったっけ？



昔、遊んだ砂浜とは  
ちよつと違うけど、  
砂浜って、  
こんなに気持ち  
良かったっけ。



なごみの  
情景



砂の造形  
水面に、にぎわいを映す

# 休日はカメラ片手に自然散策

鹿児島女子高等学校 校長

新須 則雄さん

## 城山は植物の宝庫

写真が好きで、自然を題材に、草花や風景を主に撮っています。

城山は、植物分布の縮図と言われているとおり、種類も非常に多く、まさに植物の宝庫ですね。

花の表情を撮るには早朝が一番。朝露に濡れる花びらなど風情があつていいですね。シャッターチャンスに心がとぎめきます。

いい写真を撮るなら、被写体に対し、粘りとこだわりが必要ということでしょうか。

前任地の奄美大島では、何とかして「ルリカケス」を望遠レンズで写そうと、現場に何回も足を運んだりしました。

あちらには、ハブが生息していて、うかつにやぶの中に入って撮影できないんです。だから今でも草むらに入ると反射的に身構えてしまふんですよ。(笑)

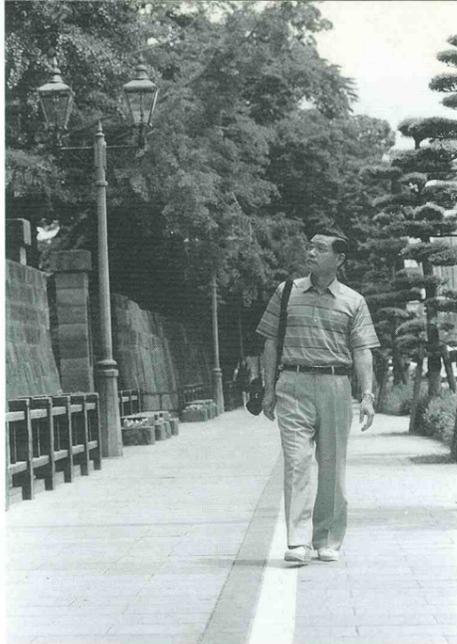
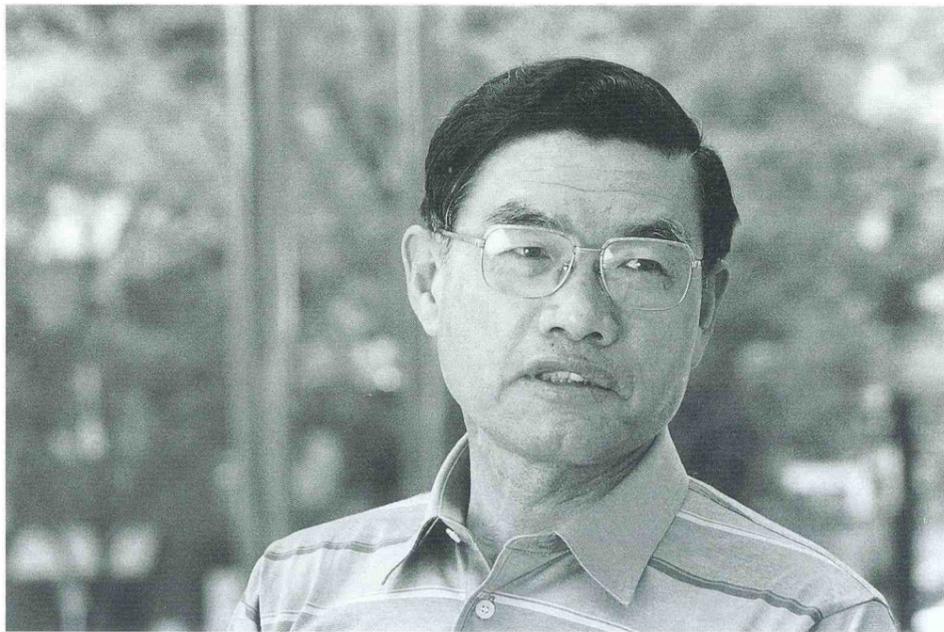
レンズを通して見たすばらしい城山の姿。私なりに写真で記録できたらいいなと思っています。

## 歴史と文化の道〜中央公園

街路樹のイヌマキと水路が、歴史と文化の道にふさわしい雰囲気を感じていますね。ガス燈が灯る夜景もいいし、美術館のライトアップも緑青の屋根が夜空に映え、幻想的なムードです。

最近、街なかの公園に親水ゾーンやケヤキなどの緑が増え、とてもいい感じですね。

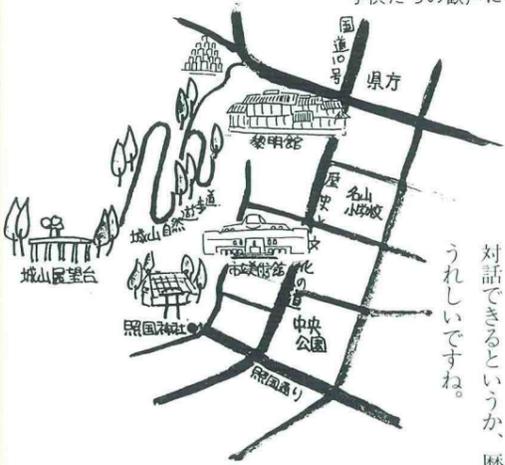
この中央公園の緑もあと十年もすれば、木々がうんと成長し、緑陰で読書や昼寝を楽しんだりする市民の姿がもっと増えるんじゃないでしょうか。



「歴史と文化の道から中央公園を結ぶこのルートは、ゆっくり散策するにはもってこいのコースですよ」



「緑と水と光」がテーマの中央公園。せせらぎで遊ぶ子供たちの歓声が心がなごむ



うれいすね。

## 名勝 玉里邸跡

今日は、ことのほか快晴で、吹く風も実にさわやか。こうしたビル群の真ん中に、木立と芝生のスペースがあるだけで、なんだか心がほっとなごみますね。

最後にここだけはぜひ紹介しておかないと……。

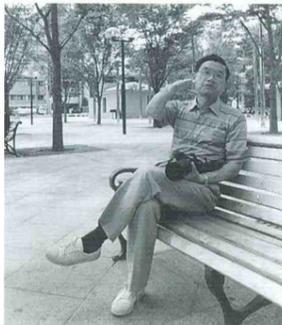
私の勤務地、鹿児島女子高の中にある玉里邸跡です。今でも、校門の横に数本残っていますが、かつては、この前庭のあたりには、広い梅林があつたそうですが、その白梅は本校の校章にもなっています。

昼休みによく散策するんですが、心が落ちつき、自然が大好きな私にとって非常にリラックスできる場所です。

バスが通るなど、周囲は決して静かではないんですが、こうして緑豊かな雑木林や鶴の池、それに茶室を眺めていると、不思議に騒音が耳に入らなくなってくるんですよ。視覚的なインパクトが聴覚をまひさせるともいいますよ。うか。

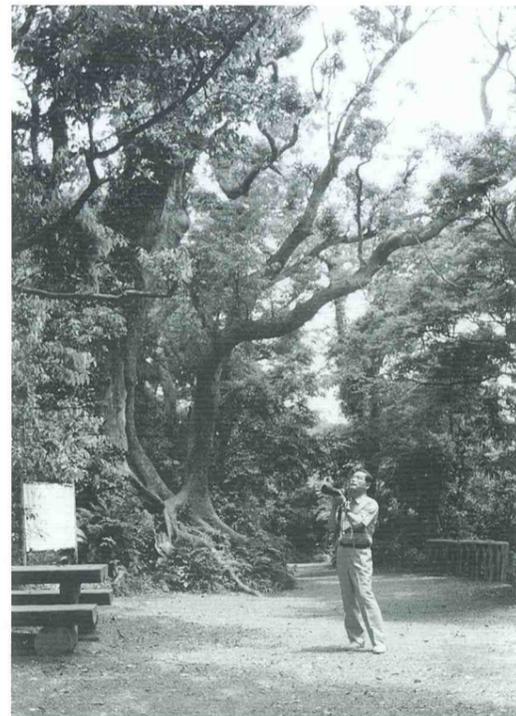
野鳥もよくやってきて、せせらぎで水浴びをしています。仕事から県内をあちこち見てきましたが、市街地にこれほどの自然が残されている例は稀ですね。

まるで、ここだけが緑に覆われた別世界のようです。人工的な美を誇る庭園とは違い、ほぼ自然に近い状態で保存しているので、足を踏み入れるたびに、直接、自然と対話できるというか、歴史の重みを肌で実感できることがうれいすね。



中央公園のケヤキの広場にて、しばしばカメラマンと写真談義

庭の裏表がない回遊式庭園で、どこに立って見ても、まとまった美しさが特色の玉里邸の庭園。市の文化財にも指定されている



野鳥のさえずりに散策の足を休める  
—城山自然遊歩道にて



城山は植物の宝庫。この日も自然遊歩道脇の花をバチリ

### ●取材メモ

今年の四月に県の大島紬技術指導センター(名瀬市)から赴任。十月に、百周年を迎える鹿児島女子高校の校長として、現在、その記念事業の準備に多忙な日々を送る。「就任して驚いたことは、まず部活動が盛んなこと。そして蠟燭で磨き上げられたびかびかの廊下でした。生徒たちの勤勉さと礼儀正しさは百年の伝統に培われてきたもの。これからも生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育を進めて行きたいですね」と熱く抱負を語る。

趣味はジョギングと写真撮影。玉里団地二丁目在住。五十九歳。

# 史 訪

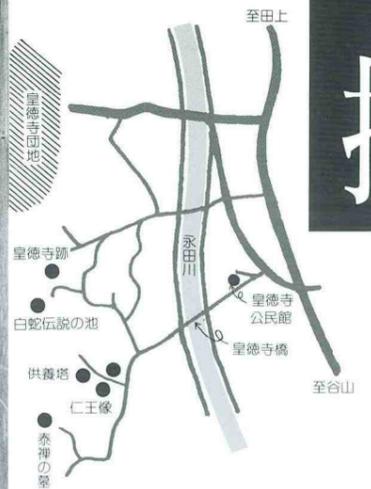
## 歴 探

ふるさとの

かねなが(かねよし)  
 懐良親王をしのんで建てられた

# 皇徳寺

鹿児島市山田町



磨崖仏



廃仏毀釈により壊された仁王像(右)



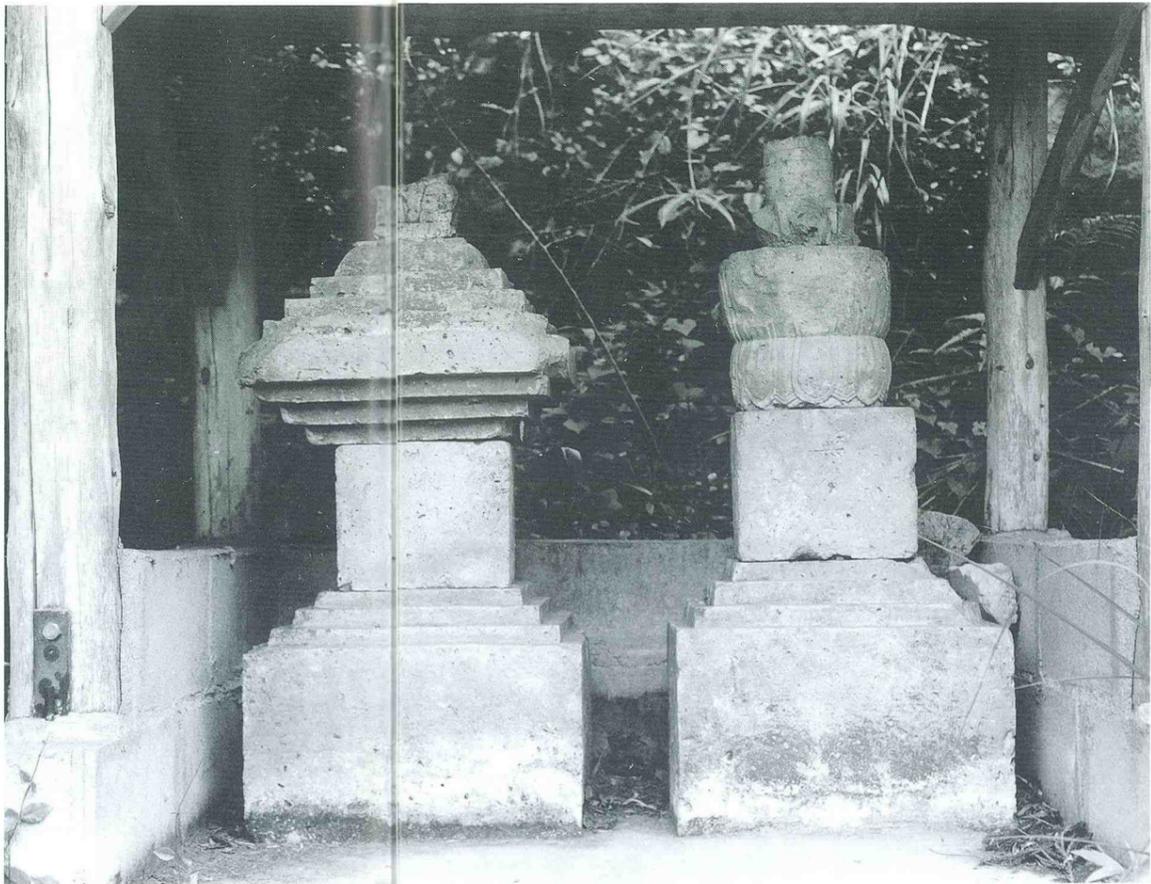
寺の住職が水浴して修業した「あなぶろ」の跡



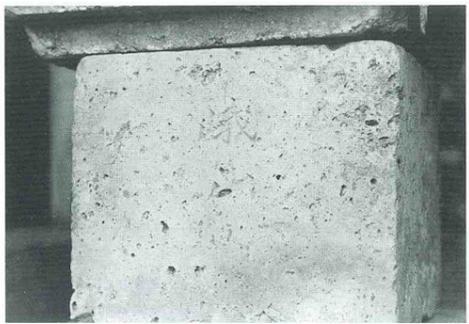
皇徳寺歴代和尚の眠る墓



六地藏塔



峨山禪師と無外和尚の供養墓



峨山禪師の供養墓



無外和尚の供養墓



皇徳寺団地から皇徳寺跡を望む



白蛇伝説の池

## 皇徳寺にまつわる民話

皇徳寺の客殿の横の池に、大蛇がいて毎年ひとりの娘がのまれていた。村人たちは今年もまた村の娘がのまれると悲しんでいた。皇徳寺の坊さんがなんとかして退治することになった。坊さんは毎日小石を拾い、それにお経の文字を一字ずつ書いて経文を唱えながら、その池に投げこんだ。

するとある日、突然池の中に暴風が起り、竜巻が起って大蛇が姿を見せた。坊さんはお経を唱えて身動きもしなかった。やがて池から抜け出した大蛇は皇徳寺の裏山に姿を消して、小さな白蛇になってしまった。この大蛇の逃げた所を「ざだい」と呼んでいる。

## 歯の神様の話

皇徳寺の寺山の南面は、俗に隠居した墓地といわれ僧侶の墓が残っている。このうち泰禪としした仏像型の墓石は、俗に歯の神様といわれ、歯の痛い人たちは大豆を供えて参拝した。土地の人達の信仰が厚い。享保14(1729)己酉7月朔日と刻されている。



廃仏毀釈により壊された仁王像(左)



泰禪(歯の神様)の墓

南北朝時代、谷山郡司の谷山五郎隆信は、後醍醐天皇の皇子懐良親王を征西將軍として薩摩に迎え、御所に谷山御所を建てた。親王は御所近くに国土の平安を祈って皇立寺を建て、さらに戦勝を期して諏訪神社を建てた。北朝方の守護島津貞久の東福寺城(現在の多賀山付近)の戦、紫原、青屋松原、牛掛、笹貫、波平の戦と、一進一退が続き、決定的な勝利をおさめないまま、親王は六年間この御所に滞在し、後は侍従、三條泰季に任せ、肥後の菊池氏のもとに去り、やがて弘和三年(一三三三年)福岡の矢部地方で死去された。谷山隆信の子、忠高は親王の位牌を皇立寺にまつり、その後無外円照和尚を招き、新しく山田に永谷山皇徳寺を建てた。皇徳寺は、能登(石川忠)の総持寺の末寺で、七堂の伽藍を備え、堂々とした大きな寺で、多くの信者や舜田などの名僧もいた。明治二年(一八六九年)の廃仏毀釈により取り壊された。今でも仁王像、無外円照、円照の師、峨山禪師の供養墓や歴代和尚の墓などが残っており、杉馬場、下馬先、寺屋敷、門前などの地名もそのまま残っている。これらの遺跡から当時の皇徳寺がいかに大きかったかがよくわかる。

薩摩神社仏閣調査によると、皇徳寺は福昌寺の末寺で、寺高百石となっていて、谷山では最も石高の高い寺であった。廃仏毀釈前の谷山の常楽寺、円妙庵、多福庵、帝釈寺など有名な寺は皇徳寺の末寺であった。廃仏毀釈により破壊された遺物の中で、手洗鉢、花瓶(宋胡録写薩摩焼)、香炉、寺の礎石の一部分、寺の柱の一部分、それに木彫の仏座像など個人で所有したものが残っている。寺跡に文禄、慶長の役に従軍した島津義弘の子久保の三年忌に殉死した山本親匡の墓石(高さ二・八尺)、六地藏塔が残っている。外に磨崖仏、一石二字経塚もある。また、寺の住職が修業中、水浴した「あなぶろ」と伝えられる場所や白蛇の話伝える池も残っている。

木原 三郎  
 鹿児島市文化財審議会委員

# よかタイム

## 熱帯魚

●薬師一丁目の  
長田 辰彦さん



3mの巨大水槽にいる色々な魚が…

### Qよかタイム7つの質問 A

**Q1** 熱帯魚を飼いはじめてどのくらいですか

**A1** 13歳でグッピーに始まって、もう29年になります。

**Q2** きっかけは

**A2** 動物好きの父の影響が大きかったと思います。アリ、ハト、犬、七面鳥などいろいろな動物を飼いました。

**Q3** なかでもどうして熱帯魚に

**A3** 熱帯魚は家の中で飼えるので、いつでも観ることができまし、身近に感じられるところが好きです。

また、仕事を終えた後のいい息抜きになります。水替えなどかなり手がかかりますが熱中できる時間がより楽しいです。

**Q4** 現在の水槽の本数と魚の数は

**A4** 大小30本の水槽がありますが、魚の数は厳密にはわかりませ

**Q5** 熱帯魚のおもしろさは

**A5** 病気とかはどうしても出ますが、少しでも回復すればという

か、心配なんだけど、逆に気持ちは高まります。また、趣味を通じて友達が増えるのもいいですね。話は尽きません。



魚を見つめる優しい目

**Q6** 家族の理解は

**A6** 子どもが水を止めてくれたり、みんな協力してくれます。家庭の中の趣味ですからコミュニケーションの時間も増えました。

**Q7** 余暇時間の割合

**A7** 9割は占めると思います。前はゴルフとかもやってましたが、今はこれに取りつかれました。

熱帯魚の話となると実に楽しそうに語る長田さん。将来は熱帯魚の温室を作って、今以上に繁殖にチャレンジしてみたいとのこと。「50になっても60になっても、やってるでしょうね」とは、まさによかタイム。

# かごしまの自然

## 平川の海辺

# 自然



鹿児島市街地から国道を南へ。

昔とおもむきは変わったが、現在も白砂の海岸線が見られる。  
潮風に吹かれると、子どもの頃の自分が、ふと顔をのぞかせる。

足元に打ち寄せるさざ波が郷愁を運んでくる。

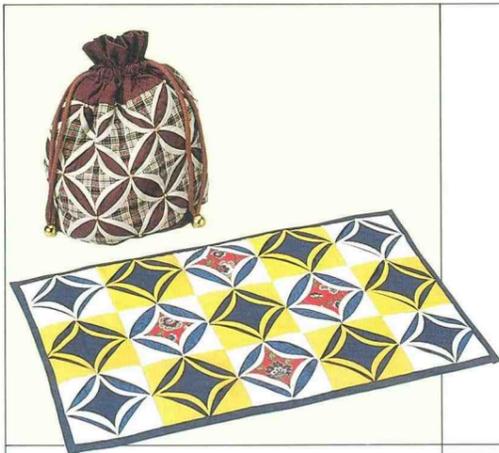
今日は童心にかえって、子どものころの記憶を旅してみようか。

後ろを通る自動車の騒音も意識の中から、消えてゆく……………。

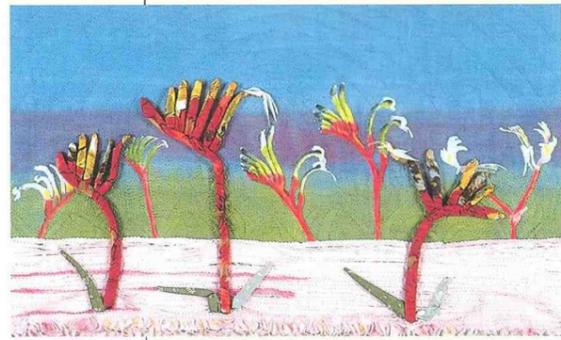
「鹿児島にも、まだまだ自然を感じる場所があるんだな。」と実感する。

一瞬、時間が止まった。

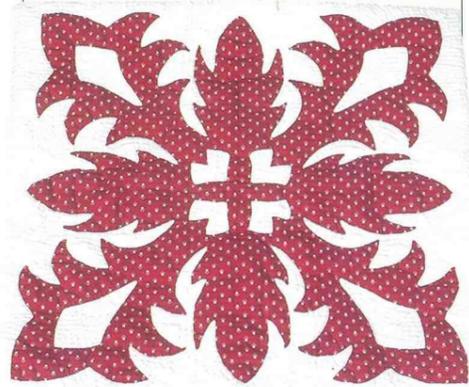




佐々木育子さん  
西きよ子さん



松田寛子さん



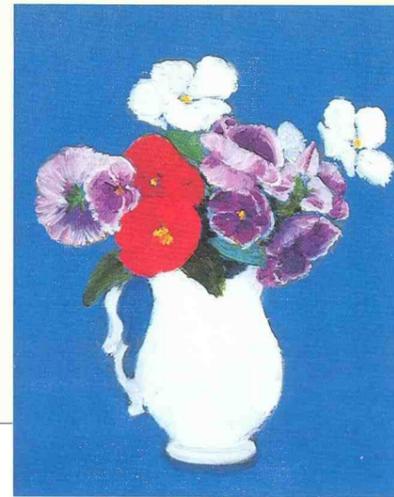
俣野好絵さん



崎向シツエさん  
鮫島さとみさん  
俣野好絵さん



北村洋子さん  
中尾千鶴子さん



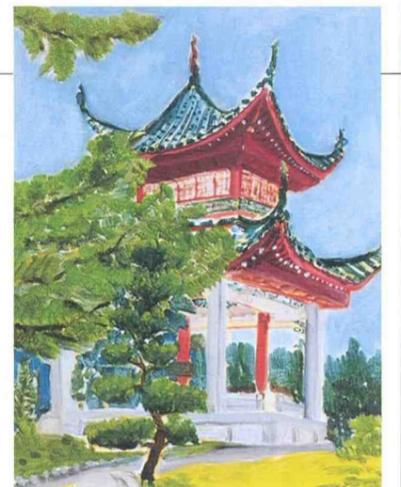
「静物一花」  
桑波田美津子さん



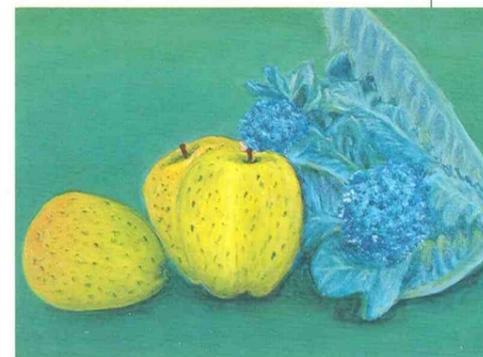
「人形」  
中山洋一さん



「風景一港」  
白尾睦子さん



「風景一共月亭」  
下之角正巳さん



「静物 りんごとフロッコリー」  
鎮西昭人さん

皆さん/楽しく学んでいらっし  
やいますか?  
今回から、いろいろな講座で学  
ぶ皆さんの作品を、このコーナ  
で紹介していきます。  
第一回目は、中央公民館の自主  
クラブ・パッチワーク「はつき会  
と洋画「コスモス会」の皆さんの作  
品を紹介します。  
パッチワーク「はつき会」は松田  
寛子先生を中心に、毎月第一・第  
三・五曜日に活動を行っています。  
パッチワークは、色や大きさの  
違う布地をつぎあわせて、変化に  
富んだ模様を作ることができ、十  
四人のメンバーが「仲良く・楽し  
く」色とりどりの布地に取り組ん  
でいます。  
洋画の「コスモス会」は、花田正  
實先生を中心に、毎月第一・第四  
水曜日に活動を行っています。  
現在のメンバーは二十一名。風  
景・静物・人物などを題材に洋画  
の基礎技術を勉強しています。  
それぞれのグループの皆さんが、  
生き生きと輝き、楽しそつに学ぶ  
姿が印象的でした。皆さんの作品  
を、ぜひ、ゆっくりと鑑賞くだ  
さい。

# 市民ギャラリー

●中央公民館・自主クラブ●

## GALLERY

パッチワーク「はつき会」

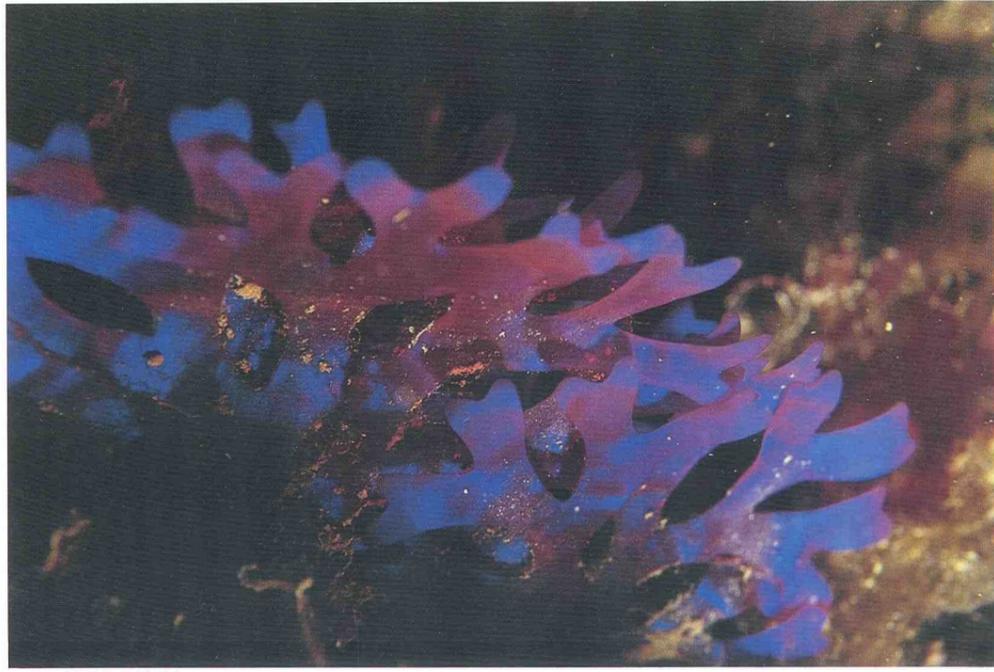
## GALLERY

洋画「コスモス会」

あなたの  
フォトサロン

「錦江湾  
海中散歩」

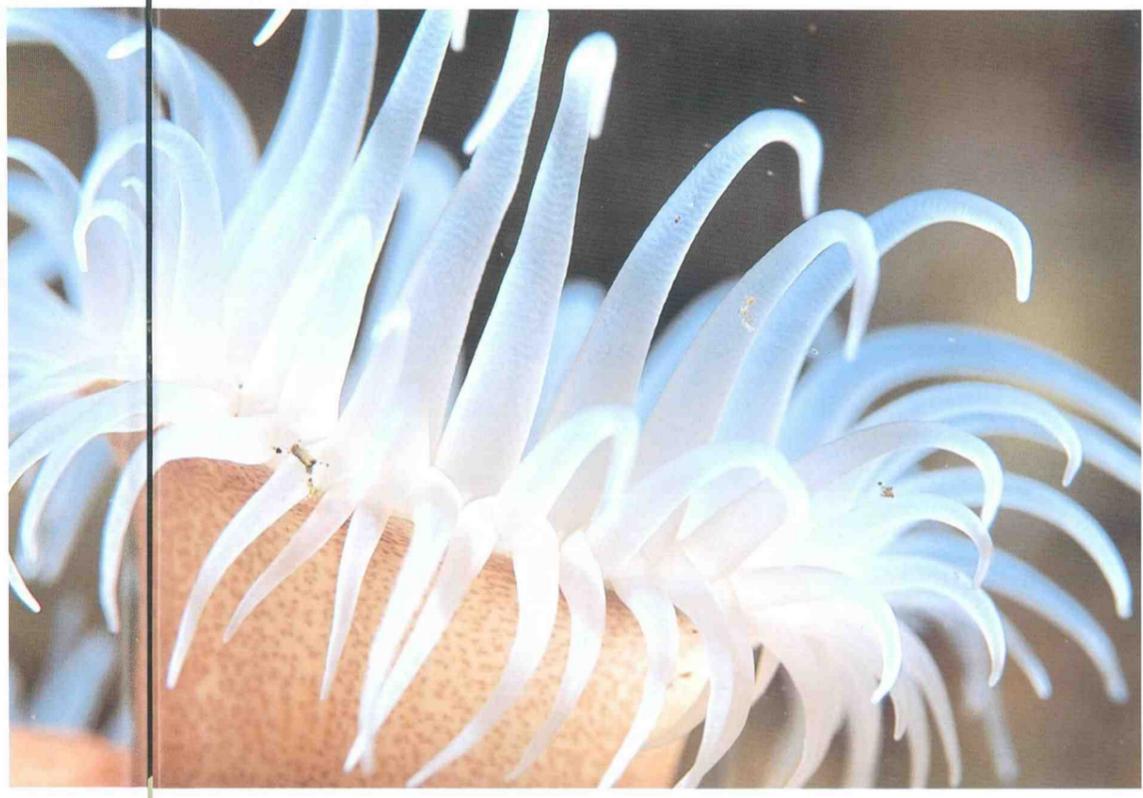
写真 樋高年昭さん



▲ウスバワツナギソウ



◀クマソハナダイ



◀ウスマカイソギンチャク

▶溶岩に付いているウミシダ



◀イソギンチャク

▶ギンボ



◀ギンボ



## 「月曜日が待ち遠しくて…」と、家庭的な雰囲気のママさんコーラス。

勤労婦人センター主催の「婦人合唱講座」の受講生が集まり、自主グループ「コール・モンターク」を結成したのが、昭和57年11月。合唱講座の受講日が月曜日の午前中だったことにちなんで、クラブ名もドイツ語で月曜日のコーラスという意味の「コール・モンターク」と命名した。

クラブの練習日はもちろん、昨年行なわれた10周年記念演奏会や定例会、忘年会などのイベントもすべて月曜日に行われる。

「月曜日が待ち遠しくて……」。とかく憂うつになりがちな月曜日が、充実した日になる！

54人の団員の出席率も抜群で、年齢層も20代から80代までと実に幅広い。

「飾らず、気負わず、楽しく」。まるで、3世代が同じ家に住んでいるような、にぎやかで家庭的な雰囲気に心もなごむ。

タクトを振る指揮者の小笠原克美先生は「コール・モンターク」育ての親。「先生の人柄にひかれ、みんなここまでやってこれたんです」と団長の土屋純子さんは語る。

曲のレパートリーも、合唱組曲から童謡、民謡、ニューミュージックまでとバラエティに富んでおり、懐の深さを感じさせる。

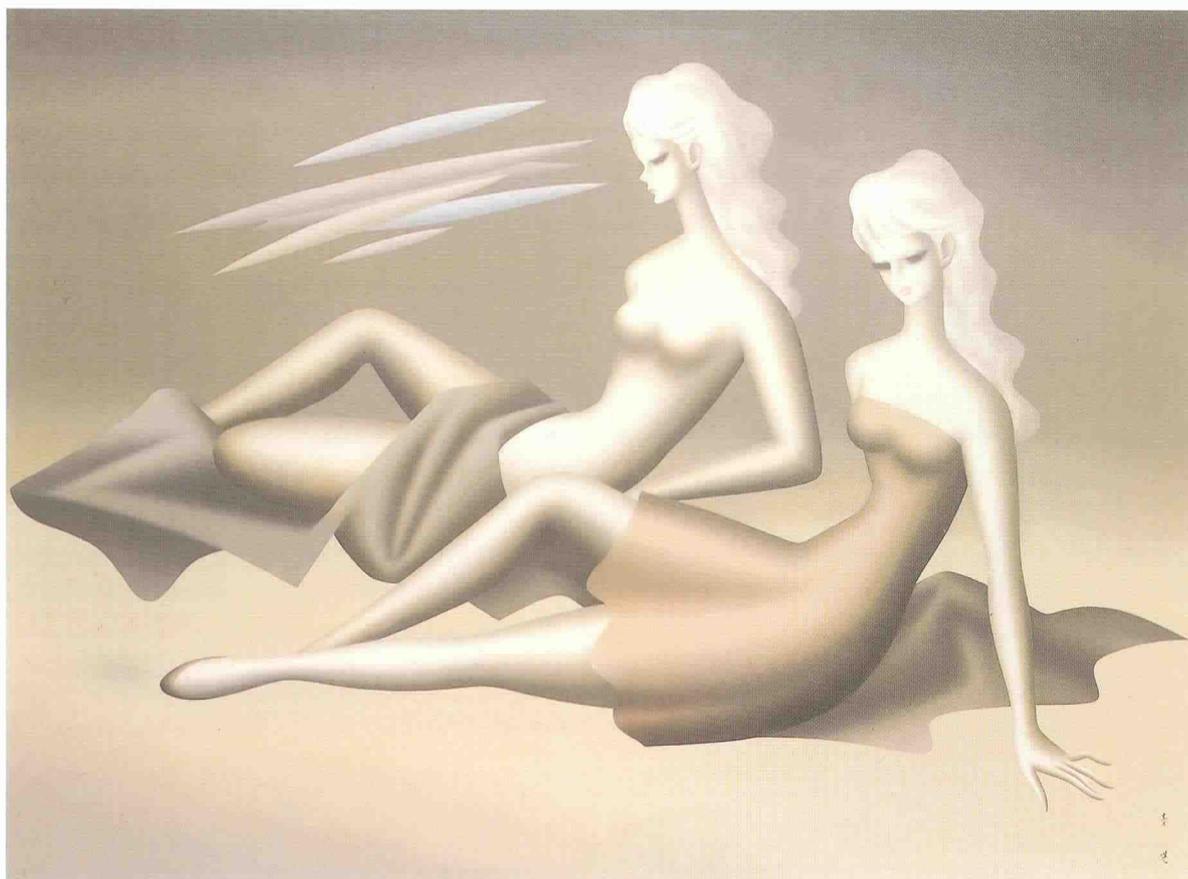
朝日のようなさわやかさ—。

そんな形容がぴったりのママさんコーラスグループでした。

集えば楽し

ママさんコーラスグループ「コール・モンターク」の皆さん

サークル紹介



# 「雲」

(1965年)  
サイズ:116.3×91.1cm  
油彩・キャンバス

## 東郷 青児 1897～1978年

〈作者〉 明治30年、石本鉄造、東郷春の長男として鹿児島市下荒田町に生まれる。本名は鉄春。

同42年、青山学院中学部に入学。青児の号は、青山学院から来ている。山田耕筰、有島生馬らとの幸運な出会いに影響され、日本洋画史上、最初の未来派画家として注目される。19歳の若さで二科賞を受賞。

大正10年に渡欧するも、本場の前衛絵画運動に失望し、むしろ古典的作風に多くを学んだ。

第二次大戦後は、解散していた二科会の再建にいち早く挺身し、会長となる。日本洋画の大衆化、国際化に貢献。昭和53年の突然の死に対し、文化功労者没後顕彰を受けた。

art  
Museum

## 市立美術館

### 〈解説〉

冷たく透き通るまで煮詰められたゼリーののように、極度に単純化された人体を描く作者の職人的な技量には定評がある。いったん制作に取りかかるとやり直しは効かず、最後に唇に朱をさして完成するまでの工程は機械的に進められるという。作品を子細に眺めると、作者の言葉どおり、唇、耳元、指先がほんのりと紅く染まり、機械的に生み出されたマネキンに命が吹き込まれたかのようなのである。

ぎりぎりのところまで抑制された色彩。モチーフの質感にアクセントをつけるため、あえて筆のタッチを残した髪表現。画面に清涼感をもたらす幾何学的な雲。一見、甘い作品だが、そこには作者のシビアなまでの計算が隠されている。

六十八歳のこの時期は、最盛期どころかまだまだ過渡期といって言い過ぎでないくらい、この後もより斬新なフォルムを追究することになる。

市立美術館学芸員

谷口 雄三

### 情報コーナー

本や雑誌・ビデオがそろえてあります。

### 相談コーナー

専門の相談員が相談に応じます。



### サークルコーナー

消費者の自主活動の場として利用できます。

### 展示コーナー

パネルや見本等を展示してあります。

## お気軽にご利用下さい!



明日の暮らしお手伝い

# 鹿児島市消費生活センター

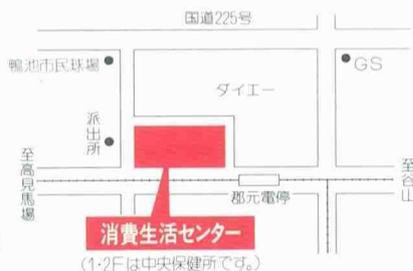
消費者のより良きパートナーとして、多様化、複雑化する消費生活に関する様々な問題を、あなたとともに考え解決する場です。

#### ◆利用できる日と時間

月曜日～金曜日の  
午前9時～午後5時

#### ◆利用できない日

- 土曜日と日曜日
- 祝日
- 年末年始(12月29日～1月3日)



☎58-3611

☎52-1919 相談コーナー

鴨池2丁目25番1-31号  
鴨池ビル3階中央保健所上